

みなと再生事業の現状（2020．2）

みなと再生事業

『「交通」の港から「交流」の港へ』を基本コンセプトに、海のコンコースと港湾緑地の整備や、交通広場と臨港道路の整備、駐車場・駐輪場とフェリー待機場の整備、みなと交流センターの整備を行うことで、にぎわい創出空間を形成する。

今治港を活用した交流・にぎわい創出

整備されたみなと交流センター「はーばりー」を活用し、はーばりーマーケットなどのみなと施設を活用したにぎわいづくり、みなと交流センターや海のコンコースの利活用促進のためのプログラムづくり、本市の海事産業や海に対する理解促進イベントを、市民と共働で推進し、今治港でのにぎわいを中心市街地へと波及させる。

〇はーばりー施設利用状況について

キッチンスタジオ・みなとホール・会議室1・会議室2を含めた利用者数は、平成28年：6129人（7月～3月）
平成29年：18,291人・平成30年：16,028人となっている。

利用者の増減は、みなとホールイベント数により変動。

	キッチンスタジオ	みなとホール	会議室1	会議室2	小計
4月					0
5月					0
6月					0
7月	0	0	82	0	82
8月	27	290	53	0	370
9月	87	240	83	0	410
10月	156	985	223	4	1,368
11月	100	536	127	27	790
12月	204	480	186	35	905
1月	59	287	138	3	487
2月	144	379	172	11	706
3月	146	650	194	21	1,011
計	923	3,847	1,258	101	6,129

	キッチンスタジオ	みなとホール	会議室1	会議室2	小計
4月	80	125	254	11	470
5月	120	2,130	216	24	2,490
6月	211	240	284	23	758
7月	266	365	244	30	905
8月	111	651	260	10	1,032
9月	169	357	317	20	863
10月	166	696	420	56	1,338
11月	114	435	337	53	939
12月	180	150	216	51	597
1月	159	141	245	23	568
2月	175	7,094	298	27	7,594
3月	209	288	216	26	737
計	1,960	12,670	3,307	354	18,291

	キッチンスタジオ	みなとホール	会議室1	会議室2	小計
4月	122	36	281	56	495
5月	131	65	230	38	464
6月	151	343	273	19	786
7月	174	758	270	25	1,227
8月	153	351	211	20	735
9月	132	70	286	29	517
10月	249	147	265	62	723
11月	275	543	269	22	1,109
12月	256	1,741	245	25	2,267
1月	106	216	195	34	551
2月	199	1,080	346	52	1,677
3月	235	4,937	246	59	5,477
計	2,183	10,287	3,117	441	16,028

はーばりー稼働率

	H28年度	H29年度	H30年度
会議室1	31.61%	71.58%	77.28%
会議室2	27.73%	61.56%	62.78%
キッチンスタジオ	14.83%	33.49%	37.24%
みなとホール	14.83%	26.05%	25.52%

利用率を見るとみなとホール以外は微増。

会議室1・会議室2・キッチンスタジオについては
定期利用者も増え、日常的なにぎわいが形成されている。
パン・手芸等各種教室、定例会、販売会、海事免許更新、
勉強会等ははーばりーのコミュニティが生れている。



〇公共空間利用について

みなと再生構想において、「集いの広場」となる新しい公共空間が提案され、海のコンコース・港湾緑地・交通広場が整備されています。「交流のみなと」の核となる、公共空間、パブリックスペースなど様々な利用が展開され、種（シーズ）が集まりつつある。

1）海のコンコース

おんまく花火観覧・・・コンコース整備において一番の変化はおんまく花火の観覧といえます。コンコース整備中の平成28年度より、有料栈敷席等を展開し、雑然とした観覧に規律をもたらしている。



3×3バスケット・・・コンコースをコートとして活用。パブリックスペースを市民が様々な用途として利用する形が出来上がりつつある。自由度を持ったスペースは可能性を秘めた交流を生み出している。



2）港湾緑地

マリン広場の芝生整備。コンコースに面した形でステージとしての利用が増えている。天気の良い日には港を訪れた方々への憩いのスペースとなっている。



バリナイトパサール

「お酒と音楽と海風を楽しむ」
7月開催。参加者からの評判もよく、定着している。

いまばりよさこい祭り

はーばりーの踊り会場も定着し、令和元年には芝生広場にて開催。海をバックにした会場は少なく参加者、カメラマンからは好評。

3) 交通広場

帰省シーズン・観光シーズンには複数のバスで賑わう、交通広場。は一ばりーが整備されたことにより、利用者に快適な待合環境を提供している。尾道バスのサイクルエクスプレスも乗り入れされ、多くのサイクリストが利用している。



イベントスペースとしての利用も定着し、公共空間の新しい利用も増えている。



4) その他

ピロティ・しまなみラウンジ等の普段の利用も広がり、集いの広場としての機能が浸透している。高校生は、しまなみラウンジでの学習、ピロティでの運動会応援練習等公共空間を上手に使っている。



展望デッキでの婚礼。は一ばりーの商業施設のレストラン、ターミナル 02 が飲食を担当し、結婚式・披露宴が開催されている。は一ばりーオープン後、10 組ぐらいの婚礼の利用がある。



○海事産業や海に対する理解促進イベントの集約



とびしま竣工式



海洋フォーラム



腕木式信号機 贈呈



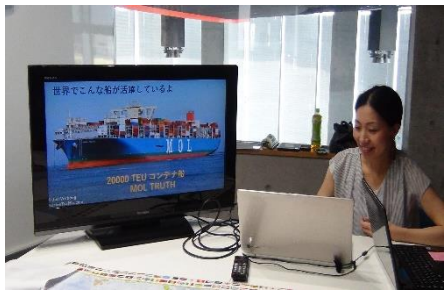
海上保安庁 巡視艇体験航海



JAMSTEC 出張展示



帆船 みらいへ寄港



ミナトデハタラク



STU48 号 寄港



今治海 Kids 倶楽部

海関連のイベントや講演会は、は一ばりーにて行われることが多くあり、定例化している講演会等も数多く、市民団体のイベントも開催されている。

○は一ばりーマーケットの開催

平成 28 年度 5 回、平成 29 年度 7 回、平成 30 年度 5 回、令和元年度 4 回のは一ばりーマーケットを開催。みなと交流センターオープンを多くの方に知ってもらう機会を創造。

みなと再生区域の多様性を活かし、様々な団体と協働する形で市民がみなとに来る機会を創った。



〇はーばりー 交流人口

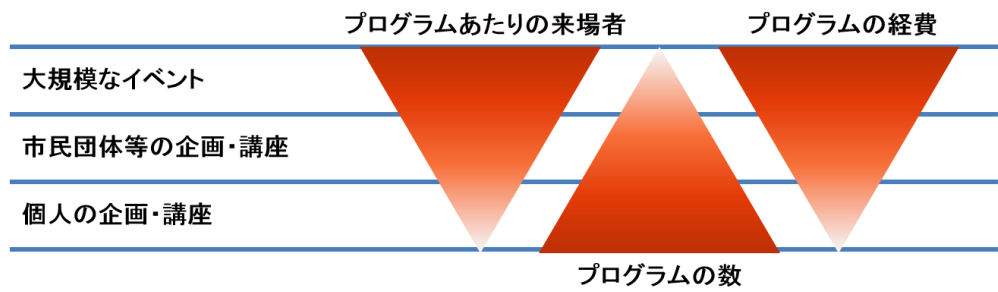
(平成 30 年度)

- ・はーばりー施設利用者 16,208 人
- ・おんまく はーばりー会場（イベント・花火観覧） 約 20,000 人
- ・農業まつり・漁協まつり 15,000 人
- ・はーばりーマーケット 16,500 人（NPO 法人今治シビックプライドセンター）
- ・バス乗降客 100 人×365 日＝36,500 人（高速バス、路線バス）
- ・就業人員 70 人×235 日＝16,450 人（年間休日日以外）
- ・訪問客、散歩等、上記以外利用者 40 人×365 日＝14,600 人

交流人口 135,258 人

（公共空間を使用したイベント参加者、商業施設利用者は含まれない）

1) 「賑わい」とは



おんまく、農業まつり・漁協まつりのように不特定多数の訪れる、大規模なイベントの、交流人口におけるイベント比率は 25%。
市民団体等の企画・講座、個人の企画・講座は、はーばりー施設利用、はーばりーマーケットの参加者数であり 23%を占める。
現状でははーばりー交流人口のイベントの占める割合は上記二つを足した数字であり 50%近くとなる。

2) これからの「賑わい」

「知ってもらう、利用者を増やす」Phase から中心市街地への回遊を促す Phase へ移行。交流の結節点としての機能を目指す。

- ・イベント、講習会、勉強会、講演会等でみなとを訪れた方へ飲食等の情報の提供を行い、みなとを起点とした回遊の創造
- ・交流人口を増やすため、コンコース・芝生広場等を使った大規模なイベントの市民との協働
- ・公共空間・パブリックスペースの利用促進

